

(仮題 幽霊だって、エッチしたいの！)

ヒロイン わたし 21歳)

また、新しい入居者か……。

ここ、わたしの部屋なのに。

大家さん、また家賃、値下げ、したのね。

駅前の一等地のマンションなのに、ありえないぐらい安いもんね。

この部屋……。

でも、それだけ家賃が安いってことは、それなりの理由があるってことぐらい、わかると思うんだけど……。

今度も、若い男か……。

お金、なさそうね。

お金がないなら、風呂なしのオンボロアパートでも借りればいいのに。

まあ、いいわ。

どうせ、ちょっと驚かせてあげれば、出ていくてくれるでしょう。

深夜一時か……。

外は雨が降ってるし、暑くてジメジメしてて、

雰囲気は、ちょうどいいわね。

ちよつと、驚かせてあげようかな……。

っていうか、なんてかっこうして寝てるのよ……。

パンツ一枚で、大の字って……。

女の子の部屋で、それって、あり?

うーん。

どうしようかな。

まずは、足首でもつかんでやるか。

こうやって、両方の、足首を、そーっと。

フフフっ……。

目を覚ましたわね。

あたりキヨロキヨロしちやつて。

そんなに見回したって、わたしは見えませんよ。

フフフっ……。

ほら、ひんやりして、気持ち悪いでしょ?

動こうとしたって、動けないわよ。

しっかり、つかんでいるから。

フフフっ……。

まあ、これぐらいで、いいかしら。

手、離してあげるか。

フフフっ……。

驚いてる、驚いてる。

夢じやないのよ。

ほら、足首に、わたしの手形、ついてるでしょう？

出るのよ、この部屋。

不動産屋さんから聞いたでしょ。

出るつて……。

あれっ？

また大の字になつて、寝ちやつた……。

あまり効いてないようね。

つていうか、よろこんでいるみたい。

もしかして彼、幽霊が出ることに期待してこの部屋を借りた、

その道のマニアなのかしら。

困ったわね。

怖がらせても、逆に、よろこんでしまうんじゃ……。

どうしよう……。

とりあえず、もう一回、足首、つかんでみるか……。

目開けて、キヨロキヨロしてる。

いくら見回しても、闇ばかりですよ。

フフフっ……。

今度は、ふくらはぎのほうまで、撫でてみるかな。

ほら、見えない女の指が、ツ、ツーって、肌を撫でてるよ。

怖いでしょう？ 気持ち悪いでしょう？

ここに住んでたら、毎晩、こんなこと、されますよ。

いやでしょう？ 耐えられないでしょう？

明日には、引っ越す準備、しましそうね。

って、ぜんぜん効いてないみたい……。

前の住民なんて、ちょっと足首つかんだだけで、

部屋を飛び出して、もう戻つてこなかつたのに……。

どうしよう……。

この人、靈感、あるかのかな？

聞こえるかな、わたしの声……。

見えるかな？ わたしの姿……。

でも、よほど靈波が合わないと、そういうのって、むずかしいのよね。

つていうか、わたし、パワーがないから、生きてる人に自分の姿、見せること、できないんだった……。

しかたない……。

もつと、別の場所、触つてみるか。

触感だけは、感じさせる力があるのよね。わたし。

ふくらはぎから、膝の裏……。太ももの、裏のほうに、

指先をツ、ツーって……。

ほら、びっくりしてよ。

そりやそうよね。

見えない指で、太ももまで撫でられているんだから。

つて、なんでパンツ脱ぐのよ！

ちよつ、ちよつとお……。

もしかして、露出狂？

どうしよう。

手ごわいな……。

でも、こんなことでたじろいてちゃダメだよね。

だって、ここ、わたしの部屋なんだから。

でも、はじめて見るな……。

おちんちんって、こんな形、してるんだ……。

生々しいというか、なんだかここだけ、別の生き物みたい。

うわっ、ヒクヒクしてる。

どうしよう……。どうしよう……。

つて、わたしが怖がつてどうするのよ！

わたしが怖がらせなきやならないのに。

えつ？ なにブツブツ言つてんのつて？

ええっ！ 見えるの？ わたしのこと。

そ、うなんだ、見えるんだ……。

想定外だな。それに、見えてるのに怖がらないなんて、

わたし、どうすればいいのよ……。

えつ？ キスされるのが、怖いの？

そつか、女嫌いなんだ。

いいこと聞いちゃつた。

じやあ、いっぱい、怖がらせてやろうかな。

キスなんてしたことないけど、唇と唇を合わせればいいんでしょ。
簡単よ。

いまさら逃げようとしたってダメよ。

もう、この部屋に一度と来たくないって思えるぐらい、
いっぱい怖がらせてあげるんだから。

ほら、キスしちゃうよ。幽霊と。怖いでしょう。逃げたいでしょう。
でも、逃がしてあげないから。

んつ、んんつ、んん……。

はあ、はあ……。

ほら、どお？ 怖いでしよう？

フフフっ……。

怖いんだ。

じゃあ、もっと、怖がらせてあげる。

【← キスする音】

んん、ちゅっ、チュ・パ・チュ・パ、ネロ・ネロ……。

【ここまで】

はあ、はあ……。

なに震えてるの？

えっ？ 睡液なんてつけないでくれって？

汚いって？

失礼ね。

でも、そんなに唾液がきらいなんだね。

だつたら、こういうのは、どお？

いっぱい、唾液、注ぎこんであげるから。

【← キスする音】

んん、ちゅっ、チュバチュバ、ネロネロ……。

【ここまで】

はあ、はあ……。

どお？ 君の口の中、わたしの唾液でいっぱいだよ。

だめだよ、出しちゃ。

口の中で転がして、ゆっくり、味わってから、飲み込むの。

フフフっ……。

嫌^{いや}でしょ。怖いでしょう？

顔も、わたしの唾液でヌルヌルだよ。

全身、もつとヌルヌルにしてあげようか？

えっ？ 頼むから、乳首だけは、やめてくれって？

乳首、舐められるのが嫌^{いや}なんだ。

だつたら、もっと怖がらせちゃえ……。

ほら、乳首、舐めちやうよ。

わたしの舌、乳首にくつついちゃうよ。

【舐める音】

ペロペロ、ペロペロ。

【ここまで】

嫌でしょ。女に乳首舐められるなんて。

乳首、なんだか硬くなつてきたよ。それに、ちょっと大きくなつたみたい。

えっ？ 男の人って、怖いとここ、硬くなるんだ。

わたしの攻撃、効いてるんだね。

だつたら、こっちの乳首も舐めちやうよ。

ほら、どお？

こっちの乳首は、指でつまんでコネコネしてあげましょうか？

唾液でヌルヌルして、気持ち悪いでしょ？

ほら、こんなにヌルヌル……。

乳首、吸っちゃおうかな。

【←キスする音】

チュパチュパ、チュパチュパ……。

【ここまで】

怖いんだね。

乳首、もっと硬くなってきたよ。

【←激しく舐めたり吸つたりする音】

チュパチュパ、チュパチュパ……。

チュパチュパ、チュパチュパ……。

【ここまで】

フフフっ……。

そんなに汗かいて、からだ、震わせたって、まだ許してあげないよ。

もつと、いっぱい、怖がつてもらわないとね。

えっ？ お願いだから、服だけは、絶対に脱がないでくれって？

見たくないんだ。女のからだ。

汚らわしいって？

ひどい言われようね。

フフフっ……。

そんなこと言われたら、脱いじやうしかないじゃないじやない。

怖いよ、怖いよ。

わたしのおっぱい、大きいから、すごく怖いよー。

ほら、どお！

わたしのおっぱい。

大きいでしよう？

いかにも、女のからだって感じでしよう？

ほら、おっぱい、口についちゃったよ。

やわらかいでしよう。スベスベしてて、もつちりしてて、
女嫌いには、たまらなく嫌な感触いやでしよう？

ほうら、やわらかいよ。プニュプニュだよ。

やめてくれって言つたって、やめないよ。

乳首なんて、どう？

ほうら、ピンクで尖つてて、気持ち悪いでしょ。

えっ？ なんで、口に、咥えるの？

見えないように、咥えてるって？

そつか……。気持ち悪いから、口に入れて、隠してるんだね。

【←軽いあえぎ】

ん、ん……。

あつ……。

【ここまで】

なんでも、ないわよ……。

ほら、怖いんでしょ。

こっちの乳首も、口で隠してごらんよ……。

【← 軽いあえぎ】

ああっ……。

んんっ、ふあっ、ああっ、ああっ……。

【ここまで】

もう、やめてくれって？

やめないよ。もっと、怖がらせてあげるんだから……。

チンチン舐められたら、怖くて死んじやうから、

それだけは、勘弁してくれって？

死んじやうぐらい、怖いんだ。

じゃあ、死んでもらっちゃおうかな。

おちんちん、こんなに大きくしちゃって……。

よっぽど、動搖してるのね。

フフフ……。

こうやって、根本を握って、

先端の、パンパンに張った部分を、舌で、舐めあげて……。

【←軽いフェラ音】

ん、んん、あう、ん、ん……。

【ここまで】

歯、食いしばって、苦しそうな顔してる。

恐怖で、目も開けられないんだ。

フフフっ……。

だつたら、こういうのはどうかな？

全部、咥えこんで、しゃぶっちゃうから……。

【←あえぎ混じりの、いやらしいフェラ音。少し長めに】

ん、ん、クチュクチユ、ハムハム……。

チュパチュパ、ヌルヌル、ジユルジユル、チュパチュパ……。

【ここまで】

はあはあ……。

おちんちんの先端から、涙が垂れてるよ。

怖くて、泣いやつてるんだね。

フフフっ……。

よほどわたしの攻撃が、効いてるようね。

なに？ お尻の穴なんて舐められたら、絶対死んじやうつて？

だつたら、見せてもらいましょうか？

君の、お尻の穴。

こうやつて、膝の裏に手をそえて、向こうへグイつと……。

うわっ、恥ずかしい格好……。

おむつ取り替える赤ちゃんみたいだよ。

お尻の穴、丸見え。

フフフつ……。

女の子の前で、こんな格好さらしたら、そりや、怖いよね。

おまけにここ、舐められちゃうんだよ。

逃げたいよね。でも、逃げられないんだよ。

こんなにヒクヒクさせちゃつて。

すぼめたつて、隠すことなんて、できないよ。

だつて、丸見えなんだから……。

フフフつ……。

じゃあ、舐めちゃおうかな……。

舌を伸ばして、こうやつて……。

【←舐める音】

ペロペロ……。

フフフっ……。

【ここまで】

からだ、すごくビクツでしたよ。

やめてくれって？

やめないよ。今度は、舌、奥まで入れてあげましょうか？

【←舐める音】

ペロペロ。むにゅ、にゅにゅ……。

【ここまで】

わかる？ 奥まで舌、入っちゃったよ。

幽霊に、お尻の奥まで舐められちゃうなんて、怖いですよ。怖いよね、。

そんなにからだ、ビクビクさせちゃつて。

死んじやいそう？

そう。じゃあ、もつと、奥まで舐めちゃおう！

【←激しく舐める音】

ペロペロ。むにゅ、にゅにゅ……。

ニュルニュル、ニュルニュル……。

入り口も、

ペロペロ。むにゅ、にゅにゅ……。

ペロペロ。クチュクチュ、ペロペロ……。

【ここまで】

フフフっ……。

もう、息も絶え絶えじやない。
たえだえ

女嫌いが、女にこんなことされちゃ、もう生きていけないわね。

そうだ。

わたしのあそこ、なんだか、ヌルヌルしちゃつてるの……。

唾液が怖いなら、ここのはるはるなんて、もっと怖いでしょ?

ここ、女の子にしかない場所だから、

女嫌いには、一番、嫌なところよね。
いや

舐めてもらおうかな。

わたしのヌルヌル。

そんなことができないって? お願いだから、やめてくれって?

でも、やめないんだなあ。

顔の上でまたいで、腰を、おろして……。

ほら、君の嫌いな場所、すぐ目と鼻の先だよー。

見える？

生温かい粘液が、唾液みたいに……。

嫌でしょ。

でも、ほら、糸をひいて、垂れちゃうよ。君の口に。

ほら……。

あーあ。垂れちゃった……。

どお？ おいしい？

フフフっ……。

苦しそうな顔しちゃって。

もう、嫌で嫌でたまらないでしょ。

逃げ出したいでしょ。

でも、まだよ。

あなたには、もつといっぱい、恐怖を刻み込んであげないとね。

ほら、舌を伸ばして舐めるのよ。気持ちの悪い、ピンクの唇。

【いろいろぽいあえぎ声】

あつ、あつ、ああつ……。

あうつ、はあ、ああつ……。

【ここまで】

どんな味……？

甘くて、ちょっと酸っぱくて、すごく嫌な味なの？^{いや}

熟れた熱帯の果実みたい？

君、熟れた果実、嫌いなんだ。

だつたら、もつと飲ませてあげる。

ほら、もつと飲んで……。

わたしの、ねつとりとした、女の汁^{しづ}……。

【いろいろぽいあえぎ声】

ああっ、あっ、ああっ……。

あうっ、はあ、あう、ああっ……。

【ここまで】

変な声、出さないでくれって……？

耳が腐るって？

フフフっ……。

ひどいこと言つてくれるのね。

じゃあ、もつと出してあげるわ……。

君の嫌いな、女の声……。

【←激しめのあえぎ声、長めにお願いします】

ああっ、ああっ、あんあん、ああっー。

ああっ、あうっ、はう、あん、あん、ああっー

ああっ、ああ、はうっ、ああっ……。

あう、あう、ああっ……。

【ここまで】

汚らわしいところ、舐めさせられて、変な声、聞かされて、
嫌でたまらないでしょう？ こんな拷問、受けたこと、ないでしょう？
でも、まだ許してあげないわよ。

ピンクの裂け目の、上のところに、

ツンツン飛び出たところ、あるでしょう？

そこ、もつと舐めて……。

あなたの嫌いな、女のからだの、一番、汚らわしいところだよ……。

【←この辺からは、最後にかけて、

あえぎ混じりで、色っぽくお願いします】

はうぐつ……。うぐ、ああつ、ああつ……。

そう、そこ……。もつと、激しく……。

ああつ、ああつ、あつ、あつ……。

もつと、吸つて！

ああつ、うぐ、ああつ、ああつ！

ああつ、おしつこ、漏れちやうつ。

ああつ！ あつ！

ちよ、ちよつと、漏れちやつた。

嫌でしょ。逃げだしたいでしょ。

でも、逃がさないから。もつと、怖がらせてあげるんだから。

ああつ、ああつ、愛液、出ちやう、ああつ、止まらない。

すごく、クチュクチュいつてる。

君の嫌いな音……。

愛液と、おしつこと、唾液が混じつて、

粘膜がこする音……。

それに、どお？ この、濃密な、女の匂い……。

甘酸っぱいフェロモンで、鼻の奥までいっぱいでしょう？

嫌よね。^{いや}怖いよね。

ああっ……。

もつと、舐めるの……。

ほら、お尻の穴も、ちゃんと、舐めて……。

あうっ……！

そう、その穴……。

嫌でしよう？ 汚いでしよう？ でも、舐めるのよ。

ちゃんと、舌をとがらせて、穴を、こじ開けるみたいに。

あうっ、ああっ、ああ、ああっ！ うくっ！

大きい唇も、小さい唇も、ツンつてとがったピンクの突起も、
ぜんぶ、舐めて。

そう、もつと、激しく……。

ああっ、ああっ、はう、うぐうっ……。

死んじやいそう？

怖くて、死んじやいそうなの？

よかつたわ……。

じやあ、朝になつたら、すぐにでも、引っ越しね……。

えつ？ ここに、おちんちん、入れられたら、

怖くて、引っ越し、確実だつて？

そうなんだ。

恐怖の総仕上げね……。

入れてあげるわ。

それが、君の一番、怖いことなんでしょう？

女のからだのヌメヌメしたところに、自分の一番大切な部分を入れちゃうなんて、そんなの、耐えられないよね。

怖いよね。恐ろしいよね……。

【ラストが近いので、この辺からは、興奮が高まつた感じでお願いします】

ほら、見える？

わたしの唇、君のおちんちん、咥えちゃうよ。

先端が、ぴちょつて……。

ああっ……！

先っぽ、咥えちゃった……。

ああっ、ヌルヌルって、入る、入っちゃうつ！

あうぐつ！

奥まで、咥えちゃったよ……。

苦しそうな顔しちゃつて……。

つらいでしょ。怖いでしょ……。

こうやつて、動いたら、どお？

わたしの唇で、挟み込んだまま、上下に……。

ああっ、うぐ、はううつ……。

そんなに、声出したつて、やめてあげないよ。

もつと、もつと、怖がらせてあげるんだから……。

わたしの奥が、キュツ、キュツて動いてる。

たまらなく、嫌な感覚でしょ。ヌメヌメした襞^{いや}が、君のおちんちんを包みこんで、からみついて、まとわりついて……。

ああっ、あっ、あっ、うぐつ……。

クチュクチュ鳴ってるよ。

粘膜が密着して、こすれ合う、恐ろしい音。おぞましい音。

ほら、聞こえる。すごく、鳴つてる……。

クチュクチュつて。

ああっ！ ああっ！

もつと、激しく動いてあげる。

ほら、粘膜がこされて、

ああっ、ああっ！

乳首も、嫌なんでしょ。

指で、コネコネしてあげるね。

どお、おちんちん、わたしの中で、しごかれて、
ふたつの乳首、コネコネされて、
嫌でしょ。怖いでしょ。

あつ、ああつ、ああつ……。

歯、食いしばっちゃって、そんなに苦しいの……。
そんなに、つらいの……。

わたしのおっぱい、驚わしづかみにしちやつて……。

怖くて、なにかにすがりたいのね。

いいわよ。君を、恐怖のどん底に落としてあげる。

ああつ……。

ああつ……。

もつと、おっぱい、揺さぶって！

ああつ、クチュクチュいつてる。

おっぱいも、あそこも……。

ああっ、わたしの中が、キュツ、キュツて……。

ああっ！ 瓔がこする。

おちんちん、硬い！

すごく、硬くて熱いわっ！

君の恐怖、感じるよ。

もつと、もつと感じて！

ああっ、ああっ……。！

恐怖の証あかし、わたしの中に、飛び散らせてっ！

【ここまで】

【←冷静な自分にもどって】

あれ？

ぜんぜん、引っ越す様子、ないんだけど。

あれだけ、恐怖を植えつけてあげたのに……。

すいぶん、しぶといわね。

まあ、いいわ。

今夜も、恐怖、植えつけてあげるから……。
もう、嫌つてぐらいに……。

【←ちょっと怖い笑い声】

フフフフフ……。

【おわり】

【 どうもありがとうございました！ 】